

企業の 取り組み

名古屋でも気軽にフェアトレード(以下「FT」)商品を手にとることができるお店が約300店舗以上まで増えているようです。例えば、こんなお店を訪れてみてはどうでしょうか。



"良質"にこだわって

伏見ミリオン座・センチュリーシネマ 支配人 稲垣 明子さん

伏見ミリオン座は、全国でもあまり公開されていない「良質な作品」を上映するミニシアターです。客層も、ニッチな話題への感度や関心が高い方が多いこともあり、平成17年の開館当初から、当時まだ珍しかったFT商品の販売を始めました。デザインが面白い雑貨や、きちんとした土壌で有機栽培で作られた食品など、良質で美味しいものを売りたいというこちら側の希望と、FT商品の理念が合致したわけです。

普段は、併設の「カフェミリオン」でFTコーヒーを販売。チョコレートやドリップコーヒー、雑貨も扱っています。お客様の反応は、FTだから買うというより、美味しいから、珍しいから買うという印象です。我々も、企業として慈善事業をしているというよりは、お金がきちんと回るしくみを作って、その中で良質なものを、美味しいもの、安全なものを届けられるのが良いところで

まずFTマークの食品を見つけたらぜひ食べてみ

てください。うちのスタッフも、一度FTのチョコレートを食べたらそれ以外はあまり食べないようです。なぜ美味しいのか。それは乳化剤を使わず、練りだけで製造しているから。そこから、FTって何なのか知っていくことにつながるんですね。映画も同じ。面白いから、と言われて観るのも良いですが、自分が「面白そう」と感じたものを観て欲しい。自分の足で、良い映画、美味しい食品、良い商品を見つけれたら楽しいですよ。



▲店内に並ぶFT商品の数々

※伏見ミリオン座は、平成31年4月に伏見駅北東に移転します。引き続き、新館でもFT商品を取り扱う予定です。



欲しいものを買っただけで、 社会貢献が身近になる

株式会社チチカカ 大須店店長 山下 真帆さん

チチカカでは、中南米など世界各国の生産者と直接取引し、オリジナルのエスニック衣料・雑貨を作り、販売しています。「チチカカを通じて世界の文化を伝えていく」「国・世代・ジャンルを超えて取引先各国の人たちと一緒に切磋琢磨、共存共栄して彼らと共に成長する」というチチカカの企業理念がFTにマッチしたこと、また、単なる援助や支援ではなく「生産者や労働者の自立を促進することができる」というFTの考え方に感銘を受けたことから、FTに取り組み始めました。

FT商品の開発については、20年以上のお付き合いになる北インドの工場と協働し、平成24年に国際FT認証コットン使用のトートバッグを日本で初めて販売できました。以降、バッグやクッションカバー、Tシャツやワンピース・ジャケット等、雑貨や衣料品を主に取り扱っています。信頼関係を築いてきた現地工場との直接取引によりFTでもお手頃な価格帯で提供でき、贈り物にするなど、若い方から主婦層まで幅広く選んでいただいています。昨年からはFT月間の5月にドラ

イフルーツやコーヒー等食品も販売し、FTタウンである名古屋のチチカカ店舗ということで、他店舗に先駆けてFTをPRしています。今後は他ブランド・他業種とのコラボも予定しています。

またFTとは別に、中南米を対象にした「ハッピートレードコレクション」では、購入いただいた金額の5%を現地の方に還元し、刺繍教室の開設やミンシンの購入、トイレも設置などを行ってきました。

このように、自分が欲しいものを買っただけで、社会貢献が身近になる。「可愛い」と手にした商品が、少しでもFTについて知るきっかけになれば嬉しいです。名古屋・大須商店街にある異国情緒たっぷりのお店です。エスニックな香りに導かれて、ぜひ足を踏み入れてみてください。



▲トートバッグやTシャツ。FT商品の背景を伝えるカードも付いている

学生の 取り組み

フェアトレードに関心を持ち、活動を広げる学生たちがいます。フレッシュなアイデアに溢れる取り組みをご紹介します。

高校生だからできるフェアトレード

愛知県立南陽高等学校(名古屋市港区)
Nanyo Company部の皆さん

授業でFTの講演を聞いて興味を持ったこと、それと同時期に近隣の蟹江町から地域連携の取り組みの声かけがあったことがきっかけで有志の生徒が集まり、同好会を経て部活動となったNanyo Company部。

朝市でFT商品を購入した売上金で、蟹江町の商店街で商品を購入し、バングラデシュの孤児院にクリスマスプレゼントを贈ったのが創部当初の活動でした。それから8年経ち、現在は12名の部員が日々様々な企画や商品開発に取り組んでいます。

最近では、自分たちで試飲して味を定め、焙煎方法を全員で決めたFTコーヒーを商品化。「コーヒーは普段飲まないから、この時に初めて飲んだんです…」と、高校生らしくはにかむ姿も。パッケージには名古屋市のマスコット「はち丸くん」を使い、愛知県外の人や外国人もお土産に買いたくなるデザインを意識しました。

また、大手IT企業が高校生を対象に募集していた地

域貢献をテーマとする企画に応募したところ見事当選。「FTタウン名古屋の周知のために企業と協働で何ができるか」という課題について勉強会を開きつつ、企画実現を目ざして発表の準備をしています。

さらに、傷付くなどして廃棄予定だった岐阜産のりんごを使用して作った「やわらかドライりんご」を商品化するなど、国内FTにも取り組み、常に「地域貢献」を念頭に置いた活動を目ざしています。

「比較的値段の高いFT商品を手にしてももらえるキャッチフレーズは?」「子ども達にFTのことを伝えるためにイベントでどんなゲームをしたら効果的か?」と悩みつつも、「大人にはない頭のひねり方をして、たとえ実現できなさそうなアイデアでもいろいろ出てくるのが強み」と誇らしそう。そして、「いつかは自分たちの主催でFTイベントを名古屋で開催し、いろんな人に来てもらいたいです」と大きな夢を語りました。



▲左奥から時計回りに、FTコーヒー、やわらかドライりんご、ココキープホルダー



ローカルなフェアトレードって? ~デザインの可能性~

名古屋工業大学大学院 工学研究科 社会工学専攻 建築・デザイン分野
准教授 伊藤 孝紀さん
修士2年 高崎 真実さん



伊藤研究室は、地域に密着したまちづくりと、デザインの持つ可能性について研究して

います。途上国向けの国際協力の意味合いが一般的なFTですが、実は国内、名古屋市内近郊の産業においても、「フェアでない」関係は様々に存在します。伊藤研究室では、FTの理念を活用して地域の職人や地場産業の活性化に役立てられないかということから活動が始まりました。

具体的には、名古屋の地域力発信のため、有松絞など高い技術力を持つ職人による伝統工芸とデザインを融合させ、地域に縁のあるお土産として学生が開発、商品化。販売につなげ、職人達へのフェアなトレードを可能にする「地域に密着した、地産地消のローカルFT」と伊藤先生は語ります。

また、研究室がFTイベントでのアンケート調査やデータ収集を担っていくなかで、院生の高崎さんはフェアトレード名古屋ネットワーク(FTNN)の学生理事として活躍。市内におけるFT商品の取扱店舗数の把握や、市民のFTに対する意識・認知度調査をし、将来的にはFTの国際会議を名古屋に誘致したいと研究に励んでいます。9

月実施の「FTタウンまつり」では、エルサルバドルから仕入れた布でできたハンモックを名古屋土産として販売しようと、ロゴマーク考案や商品ネーミングなど、デザイン面でも貢献しています。

「FT」と聞いたことはあっても、当初は「ちょっとおもしろいなパッケージの商品」程度の知識でした。でもそれがきっかけで購入する人がいるのならば、デザインの力は重要」と高崎さん。「この視点は大事で、『デザインとまちづくり』は関係性が深く、ローカルFTの推進のためにもっとデザインの力を活用すべき」と伊藤先生は言います。「まちづくりの活動は、これからは企業とコラボする等、マネジメントも視野に入れていかないと世の中に普及しない。そのためにも、研究室では基礎的な研究をまとめていく側面と、『デザインとまちづくり』の力で、FTを名古屋の魅力とともに普及させていく。この両側面ががんばりたいです」と伊藤先生は力を込めました。



▲サンドブラストの技法を使った「しゃちほこグラス」。ビールを注ぐと模様美しく浮かび上がる

FTタウンとして歩み出したばかりの名古屋に暮らす私たち。今までFTのことを知らなかったけれど、この記事を読んで初めて知った人。知っていたけれど、商品を手にしたことがなかった人。手にしたことがなかったけれど、お店に立ち寄ってみようかなと思えた人。それぞれが一歩ずつ踏み出し、「買える」選択をすることで、未来を「変える」ことができる——一人ひとりの意識と選択によって、フェアトレードタウン名古屋を盛り上げていけると良いですね。